



つながったトンボが、水辺の草にたくさんとまっていたのはなぜ

産卵のためとまっている

産卵の時期になると、トンボは、オスがしっぽの先で、メスの頭の後ろをしっかりとつかみ、2ひきがつながって産卵場所にきています。ほかのオスに、メスをとられないためです。つながっていないトンボは、上空でオスが飛びながら見張っています。

トンボは、種類によって、水面をしっぽでたたきながら、水中に産卵するグループと、水草や、水辺の植物のくきや葉の中に、産卵するグループがいます。

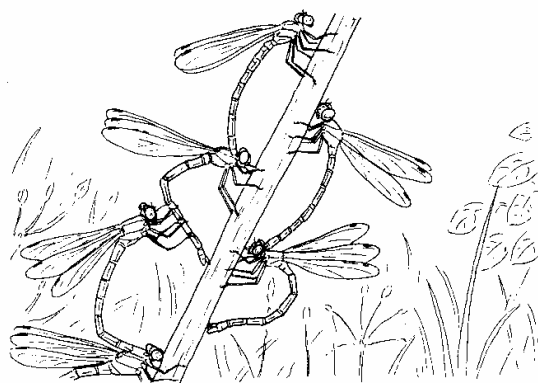
植物の中で卵からかえって水中に出る

2ひきがつながったまま、しっぽの先を水面にちょんちょんつけているアカトンボ(アカアカネ)や、シオカラトンボなどは、水中に産卵するグループです。

イトトンボやカワトンボ、ヤンマの仲間などは、植物に産卵するグループです。

アオイトトンボなどは、水面につき出た植物のくきに、オスとメスがつながったままとまり、メスは、しっぽの先の下側にある産卵管をくきにつきさして、場所を移しながら1個ずつ卵を産みつけます。ふ化したヤゴが、水中に落ちるような所に産卵しています。

ギンヤンマなどは、水面にたおれてういている、ヨシのくきなどに、1個ずつ産卵します。3週間前後で卵からかえった幼虫は、だっ皮して小さなヤゴになり、水中に出てきます。そして、およそ1年後に、羽化してトンボになります。(監修・中山 周平)



産卵するアオイトトンボ

